

安心して保護者と生徒が
過ごせる空間を広げたい

香川県立高松養護学校

近藤 創

実践の対象生徒の障害と困難の内容

- ・ 座位をとることが困難で、ベッドに寝た状態で過ごすことが多い。
- ・ 自分の意思を言葉で発することができない。
- ・ 気管切開をしており、たんの吸引が必要、導尿や注入などの医療的ケアが必要。そのため二十四時間付き添いが必要である。
- ・ 発作時は大きく身体を動かすため、カニューレがずれたりタオルが顔にかかったりすることがある。

保護者が考えている 生徒と家族が抱える困難さとは？



保護者にとって効率的な仕事のために生徒のベッドがある部屋と違う部屋で取り組む方がよいという環境面での困難

「そもそも医療的ケアが必要な息子のそばを離れるのは、心苦しい」という家族の持つこうあるべきという概念に起因する困難

離れていると、たんの吸引や発作があったときにすぐに気づけないかもしれないという心理的不安

安心して過ごすことができるスペースが狭いことが原因なのでは？

取り組みについて

○当初のねらい

生徒と保護者が安心して過ごせる範囲を広げる。

○実施者 近藤創、保護者

○実施者と生徒の関係 担任

場所をどうしたい？

- ・現状

同じ部屋

- ・今回の実践

同じ建物内の他の部屋

方法を考える

- ①対象生徒について
- ②遠隔で見るということ
- ③実際にやってみるとどうなのか 保護者編
- ④実際にやってみるとどうなのか 本人編

①対象生徒について

・たんが絡んで咳き込むことや発作で身体が動くこと以外にも、魔法の種プロジェクトの時、ビデオやOAKを使用して観察を行った結果、視線や口、手などを不随的、意図的どちらにも動かすことがわかっている。

この動きを保護者が離れていても気づくことができることで安全安心以外の事象も見逃さないようにしたい。

②遠隔で見るということ

- ・保護者が生徒の様子を離れていてモニターで見れば
いい？
- ・ずっと見続けるのは難しいので、動きがあったこと
を知ることができ、その確認をモニターを使ってで
きればいい。

②遠隔で見るということ

- ・最初に考えたのは赤ちゃん用のモニターカメラアプリ

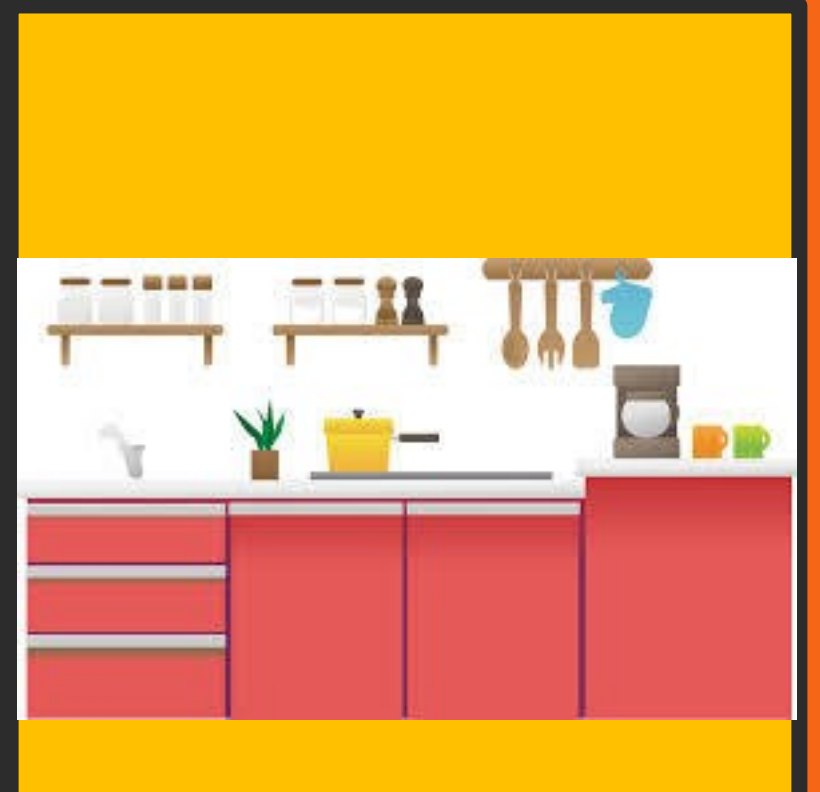
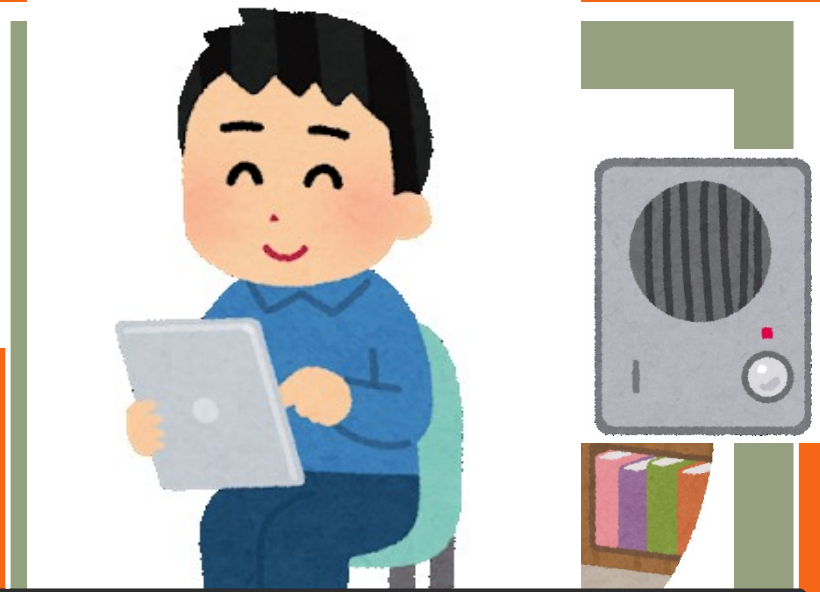
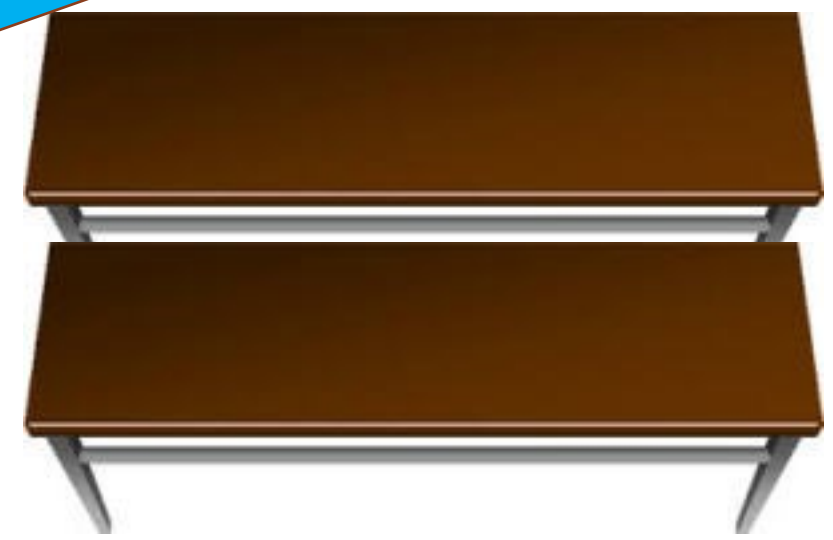
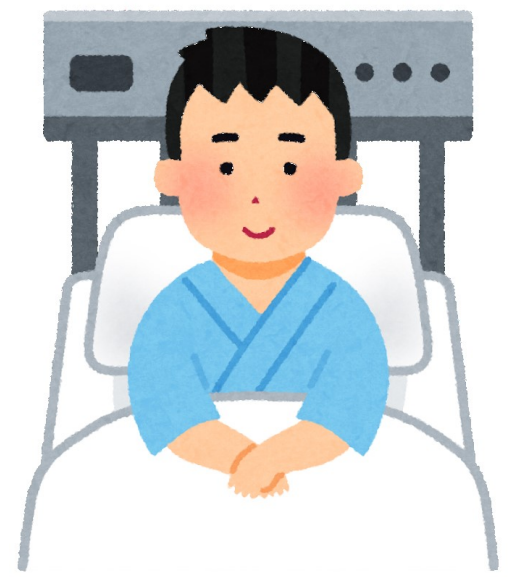


②遠隔で見るとということ

- ・問題点が、、、
- ・対象生徒の場合、表情やのどの動きは小さすぎるので気付くことができない

そこでOAKの機能エアースイッチを利用

離れた部屋にいても、



③実際にやってみるとどうなのか

保護者編

- ・保護者が今までよりも少し安心して、違う部屋で仕事をすることができるようになった。
- ・生徒が咳き込みをしたとき、その程度を画像で正確に見極めることで、必要に応じた対応ができるようになり、適切なたんの吸引をすることができた。
- ・よだれを出したあと、しばらくすると顔を動かすことでエアスイッチが作動し、程度によって拭きに行くことができた。



家族の願いは少しかなかった

- ・その時、生徒は？
- ・もしかして寂しい思い？
- ・不安な思い？
- ・今までよりも苦しいことがある？

④実際にやってみるとどうなのか

本人編

【実践者の気づき】生徒は突然鳴る、金属音などの高い音により大きく反射行動が出る。今まで同じ部屋で過ごしていると、よく母親がしているパン作りの音に反応して体をそらすことが見られたが、保護者と違う部屋で過ごしている間は原因がないため反射行動が見られなかった。

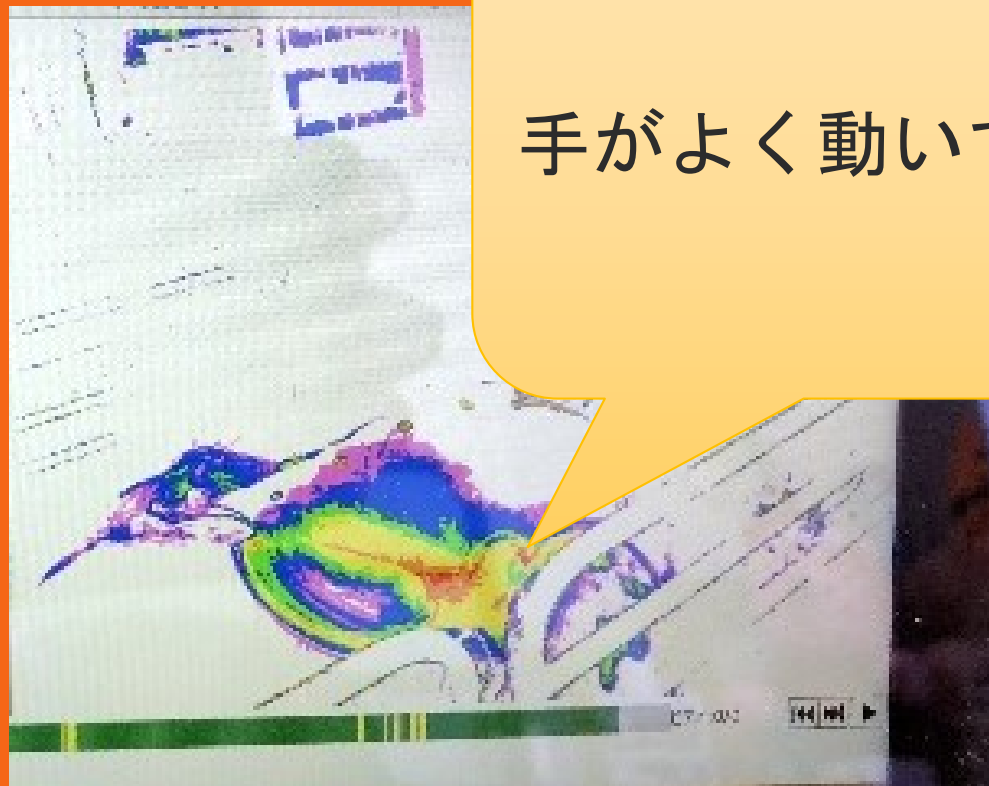
④実際にやってみるとどうなのか

本人編

【本人の観察による発見】OAKを用いながら観察していると、静かな部屋で生徒が一人にいる時、色々な探索行動や時折聴こえてくる音に対する反応をしていることがわかってきた。（普段は聞こえても意識できない近所の子供たちの声を聞いて反応して視線がゆっくり動く、近所に住んでいる猫の鳴き声を聞いて笑う）

その答えは生徒を観察をすることで探す

④実際にやってみるとどうなのか 本人編



今回の実践を通して

- ・今回の実践で、保護者が離れていても、近くにいて本人を見続けるのと同じように適切に支援ができるような環境を作ることができ、保護者は安心して生徒と距離を離すことが少し増やせるようになった。

今回の実践を通して

- ・それだけではなく、その間の子供を観察すると実は本人はひとりの時間をリラックスして穏やかに、そして静かだからこそ聞こえる音を聞いたりして、いつもと違う豊かな時間を過ごせていることがわかり、重度重複障害がある対象生徒に「新しい生活場面、生活環境」を作れたことに気付いた。

今回の実践を通して

- ・保護者の悩みを解決しようとしてスタートした実践だが、生徒に想定していた以上の素敵な影響が生まれ、生徒の生活を改めて考えるいい機会となった
- ・在宅で生活をする子供たちの保護者の悩みを聞いて、中邑先生がおっしゃっていたナース版UBERのような気楽に利用できるサービスが、将来もし実現し、それを利用することができれば、対象の保護者、生徒の生活はより良いものになる可能性があるだろう。

課題及び今後に向けて

- ・準備に時間がかかる→OAKをiPadで代用できれば楽になるのでは？
- ・以前より安心できるとはいえ、すべて任せっきりににはできない→SPO₂計測器を同時利用するなど、安全のためには注意をし続ける必要がある。
- ・対象生徒が一人でどう過ごしているか今後も観察し続ける必要がある→その時その時で状況は違う（体調、気温、本人の成長、本人を取り巻く環境の変化etc.）ことを意識し続ける。